

特別支援学校における進路指導

令和7年度埼玉県特別支援教育研究会総会

令和7年6月13日（金）

埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課

特別支援学校就労支援担当 佐藤 容亮

特別支援学校における進路指導

- 1 特別支援学校の進路状況
- 2 特別支援学校の進路指導
- 3 就労に向けて必要な観点と指導支援

1 特別支援学校の進路状況

【全国】特別支援学校高等部(本科)卒業後の状況

(令和5年3月卒業者)

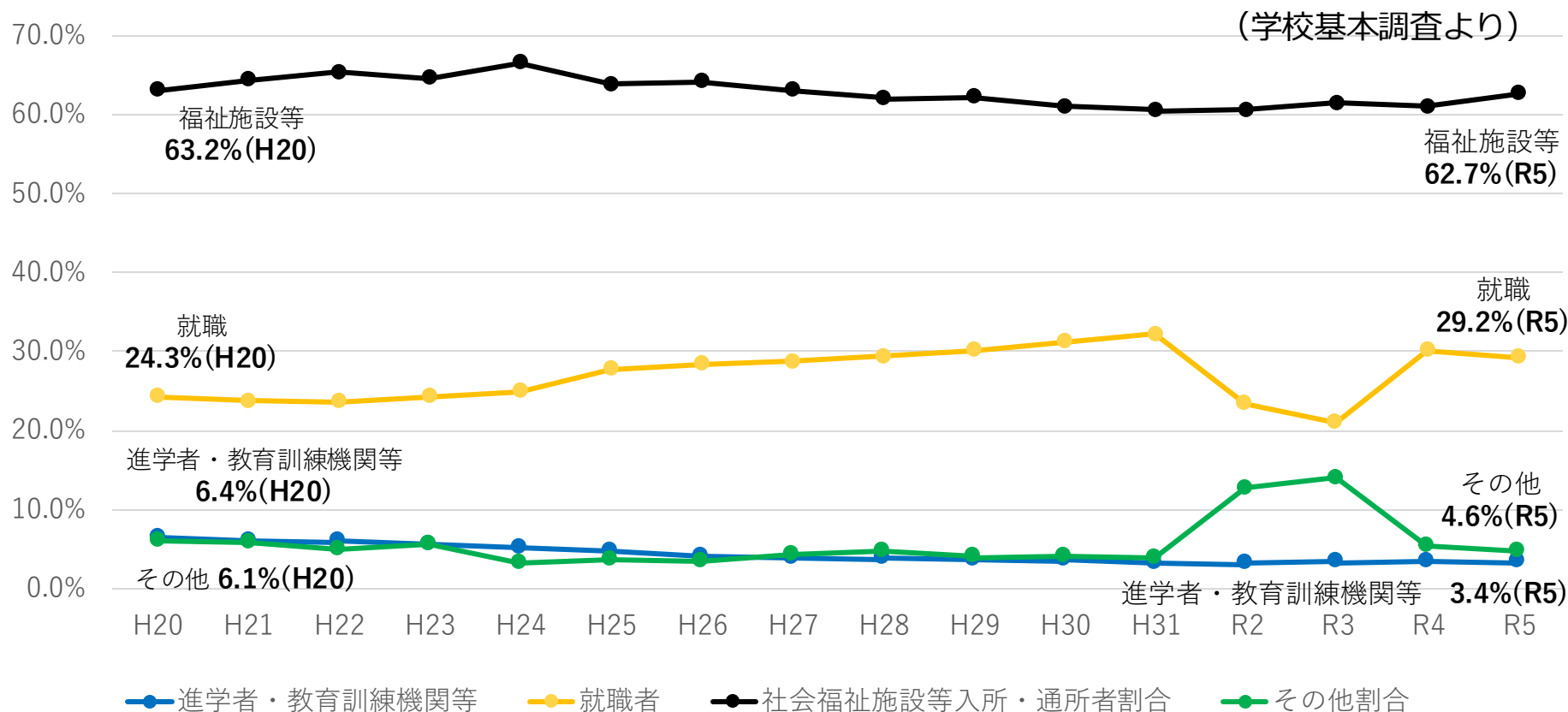
区分	卒業者	進学者 (大学 専修校等)	教育訓練機関等	就職者	社会福祉施設等 入所・通所者	その他
計	人 21,023	人 360 (1.7%)	人 352 (1.7%)	人 6,139 (29.2%)	人 13,182 (62.7%)	人 964 (4.6%)
視覚障害	242	74 (30.6%)	5 (2.1%)	30 (12.4%)	111 (45.9%)	22 (9.1%)
聴覚障害	410	149 (36.3%)	43 (10.5%)	135 (32.9%)	64 (15.6%)	19 (4.6%)
知的障害	18,471	80 (0.4%)	257 (1.4%)	5,881 (31.8%)	11,466 (62.1%)	787 (4.3%)
肢体不自由	1,744	34 (2.2%)	20 (1.3%)	71 (4.6%)	1,327 (85.1%)	107 (6.9%)
病弱・身体虚弱	384	23 (6.7%)	27 (7.9%)	48 (14.1%)	214 (62.8%)	29 (8.5%)

1 特別支援学校の進路状況

【全国】特別支援教育特別支援学校高等部(本科)卒業後の状況

(令和5年3月卒業者)

区分	卒業者	進学者	教育訓練機関等	就職者	社会福祉施設等入所・通所者	その他
計	21,023人	360人 (1.7%)	352人 (1.7%)	6,139人 (29.3%)	13,182人 (62.7%)	964人 (4.6%)



※令和2年度学校基本調査から、就職状況の区分が細かく分類され、就職者とは「自営業主等」、「無期雇用労働者」及び「有期雇用労働者のうち雇用契約期間が一年以上、かつフルタイム勤務相当の者」と定義されている(雇用契約期間が一年に満たない者等は就職者に含まれず、上記表ではその他に分類している)。

文部科学省特別支援教育課資料

1 特別支援学校の進路状況

県立特別支援学校の卒業・就労希望・就労実現者数及び就労率の推移

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
卒業生数	609	616	716	781	841	871	941	1045	1042	1019	1046	1096	1098	1096	1047	1088	1084	1097	
1年時 就労希望者	210	237	308	306	325	341	375	443	394	452	410	480	442	424	423	398	412	422	411
3年時 就労実現者	132	156	209	214	238	260	278	315	330	341	341	385	376	345	353	342	352	394	
就労実現率	62.9	65.8	67.9	69.9	73.2	76.2	74.1	71.1	83.8	75.4	83.2	80.2	85.1	81.4	83.5	85.9	85.4	93.4	
目標値 (教育振興基本計画)										84.7	85.6	86.7	87.8	88.9	90.0	90.0	90.0	90.3	90.7

埼玉県立特別支援学校進路状況（令和6年度卒業）

卒業生	進学	職業 訓練校	就職	リハセン	通所 施設等	入所 施設等	家事 手伝い	在家庭	その他
1097	16 (1.5%)	2 (0.2%)	394 (35.9%)	1 (0.1%)	604 (55.1%)	28 (2.6%)	0 (0.0%)	33 (3.0%)	21 (1.9%)

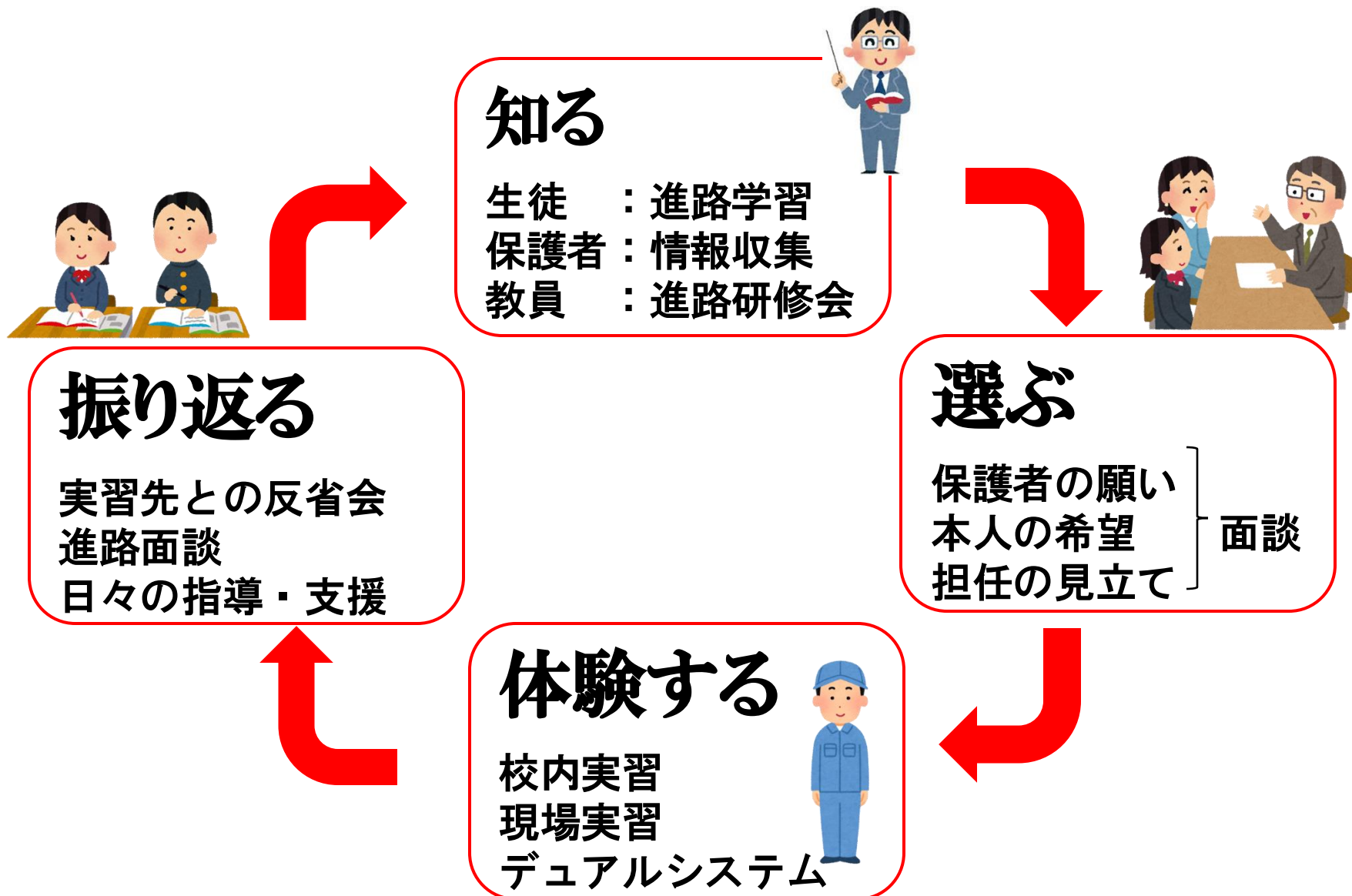
埼玉県立特別支援学校 進路状況就職者職業分類（令和6年度卒業）

専門的・ 技術的	事務	販売	サービス	保安	農林 漁業	生産 工程	輸送・ 機械 運転	建設・ 採掘	運搬・ 清掃等	分類 不能	就労A	合計
5	67	43	57	0	8	37	1	4	131	4	37	394

特別支援学校における進路指導

- 1 特別支援学校の進路状況
- 2 特別支援学校の進路指導
- 3 就労に向けて必要な観点と指導支援

2 特別支援学校の進路指導



知る

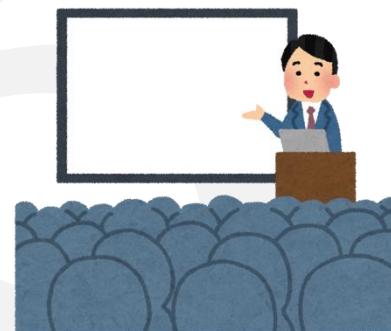
2 特別支援学校の進路指導

生徒：進路学習

- 授業（「職業」「作業」など）
- 職場見学（校外行事）
- 現場実習報告会

<外部機関との連携>

- 出張授業（ハローワークなど）
- 卒業生講演会（就労支援総合推進事業）
- 就労支援アドバイザー（就労支援総合推進事業）



2 特別支援学校の進路指導

保護者：情報収集

- 進路だより（学校より）
- 企業ホームページ
- 進路研修会（学校主催）
- PTA見学会（PTA主催）
- 個別の見学（学校を通じて）

＊注意＊

福祉事業所と違い、
企業の個別見学は難しい場合がある



2 特別支援学校の進路指導

教員：進路研修

- 進路研修会（学校主催）
- 実習先の訪問
- 施設見学会（学校主催）
- 企業ホームページ
- 雑誌
- 3 D 民間意識向上研修（就労支援総合推進事業）



選ぶ

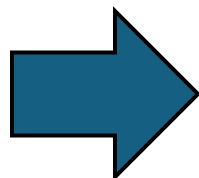
2 特別支援学校の進路指導

実習先の開拓

特別支援学校の生徒を
受け入れてください！



進路指導主事
進路担当教員



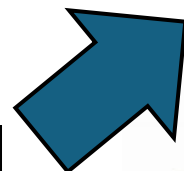
企業

管轄のハローワーク

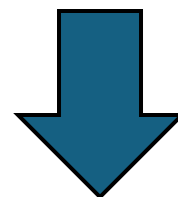
障害者雇用総合
サポートセンター

ナカポツ支援センター
就労支援センター

他校、特別支援教育課



開拓した企業を
教員間で共有



生徒保護者に情報提供



2 特別支援学校の進路指導

本人の希望



会社の名前、保護者の希望…



実習！



障害特性よりも
マッチングできるかどうか

2 特別支援学校の進路指導

企業実習の基準例



- ①一人で通勤できる。
- ②就労意欲がある。
- ③大声を出すなどのパニックを起こさない。
- ④ある程度、言葉でやりとりができる。
- ⑤作業内容や指示・注意が理解できる。
- ⑥自分で衛生管理ができる。
- ⑦登校状況に問題がない。

面談等で保護者と共通理解を図りながら進める

体験

する

2 特別支援学校の進路指導

実習の流れ

実習後の取り組みが大切！

課題にアプローチ
進路候補先の見学

進路決定・卒業

校内実習

現場実習

現場実習

現場実習

現場実習

現場実習

1年生

2年生

3年

体験的な実習

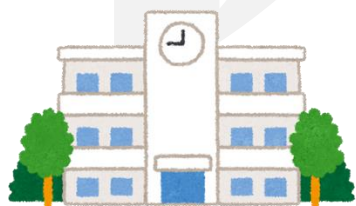
進路決定に向けた実習



2 特別支援学校の進路指導

デュアルシステム型実習

通常の現場実習



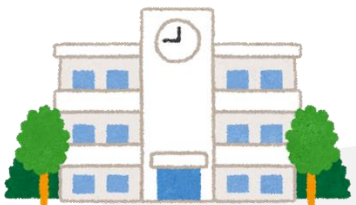
学校



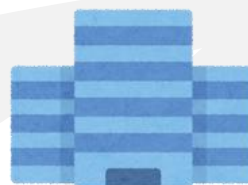
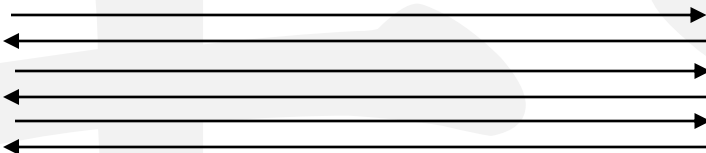
企業

実習で出た課題は、次の実習に生かす

デュアルシステム型実習



学校



企業

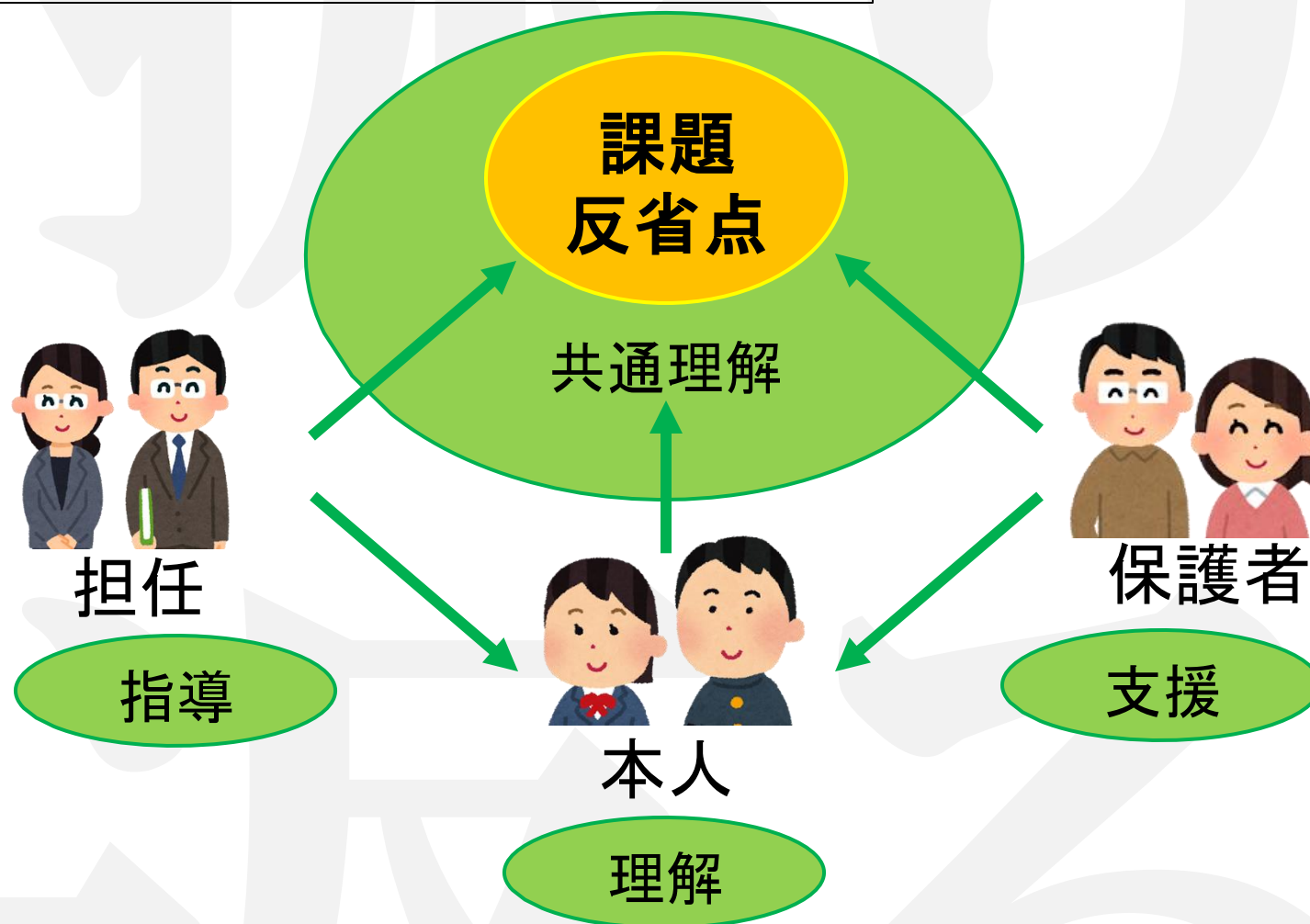


課題を修正しながら実習を進められる

振り返る

2 特別支援学校の進路指導

実習反省会・事後学習・面談



現場実習は 就職活動ではなく **教育活動**

2 特別支援学校の進路指導

課題・反省点へのアプローチ（例）

1. 作業能力

- ボディーイメージ（自立活動）
- 家事、手伝い（ご家庭）

2. コミュニケーション力

- 場に応じた言葉（SST）
- 挨拶、返事（学校生活全般、ご家庭）

3. 就労意欲

- 役割と責任（学級）
- 実習報告会（学年）
- 買い物、外出（家庭）



日々の取り組み
家庭との連携が大切

その他

2 特別支援学校の進路指導

就労に向けた連携・登録

- ・ 障害者就業・生活支援センター
 - 在学中に登録。生徒の実態や進路希望などを情報共有。
 - 卒業後、学校と支援センターで定着支援
- ・ ハローワーク
 - 実習先等、企業情報などを共有。
 - 在学中に求職登録。生徒の実態や進路希望を情報共有。
- ・ 職業センター
 - 重度判定を実施。



特別支援学校における進路指導

- 1 特別支援学校の進路状況
- 2 特別支援学校の進路指導
- 3 就労に向けて必要な観点と指導支援

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

就労に向けた4つの観点

特別支援教育

キャリア教育

職業準備性

卒業後の動向



学校の取組



家庭の取組

**連携して取り組む
役割分担（どこで何をするか）を明確にする**

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

特別支援教育



- つよみ
- よわみ
- 配慮事項

把握する

整理する

指導する

授業
学校生活
行事
実習 など

社会で役に立つものは…？

「なんとなくできているもの」ではなく
「しっかりできているもの」

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

キャリア教育

「キャリア教育」とは、
「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」



生きる力の指導



特別な教科・領域、行事による指導ではなく、すべての指導にかかわる

参照：文部科学省HP 第1章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

キャリア教育

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な**役割**を担いながら生きている。これらの**役割**は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。

また、このような**役割**の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の**役割**を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

参照：文部科学省HP 第1章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

キャリア教育

<学校・家庭で意識してほしいこと>

①「役割」は「職場」だけではない

- ・ 職場だけでなく、家庭、余暇の場への意識を

②キャリア発達を促す

- ・ 小学部段階 → 中学部段階 → 高等部段階
「お手伝い」から「役割」へ
自分のことは、自分でやらせる

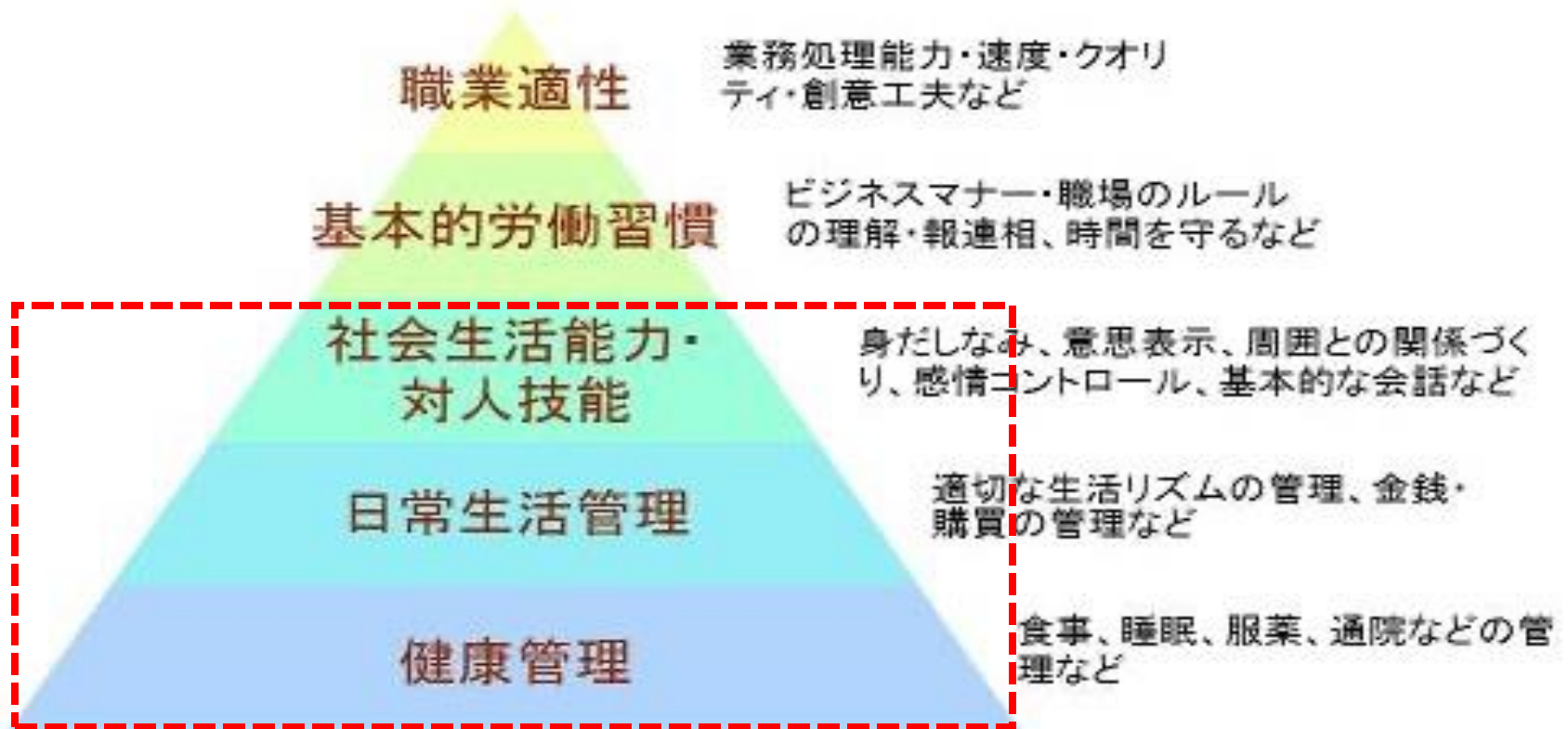
③キャリアモデル

- ・ 「先生」「親」 → 「先輩社会人」の存在へ



3 就労に向けて必要な観点と指導支援

職業準備性



独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

就労では、土台の部分ができていることが重要

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

職業準備性

＜某企業人事部として障害者メンバーの定着支援訪問を行った記録から＞

店舗からの相談内容

態度面（問題行動、勤怠関係）	14件
人間関係	5件
衛生面	4件
体力面	1件
障害特性（配慮事項）	3件
作業・技能面	0件

一都三県障害者メンバー156名 店舗でのトラブル件数・・・延べ27件（15名）

作業・技能面の相談0件→基本的な生活面の確立が重要

3 就労に向けて必要な観点と指導支援

職業準備性

<できていますか？>

毛髪関係(寝癖、鼻毛、ひげ)

マスク(汚れたら交換、鼻まで、顎マスクにしない)

口臭(歯磨き)

体臭(汗をかいたら着替え、消臭)

服の裾(ワイシャツならイン、ポロなどは出す)

ハンカチ、ティッシュ(たたむ、汗はハンカチでふかない)

トイレ(ズボンを下げない、長時間入らないなど)

靴下(くるぶしソックスを避ける、左右の長さをそろえる)



3 就労に向けて必要な観点と指導支援

卒業後の動向

県内特別支援学校卒業後の離職率（3年以内）

令和3年度卒業者 27.3%

（高卒者38.4% 令和3年3月卒業者 厚生労働省）



＜離職の理由＞

「勤労意欲の減退」25%

「人間関係がうまくいかなかった」24% 約50%



仕事に対するマッチング、モチベーション
仕事に必要なコミュニケーション能力の獲得

ご清聴ありがとうございました

特別支援学校における進路指導

令和7年度埼玉県特別支援教育研究会総会

令和7年6月13日（金）

埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課

特別支援学校就労支援担当 佐藤 容亮